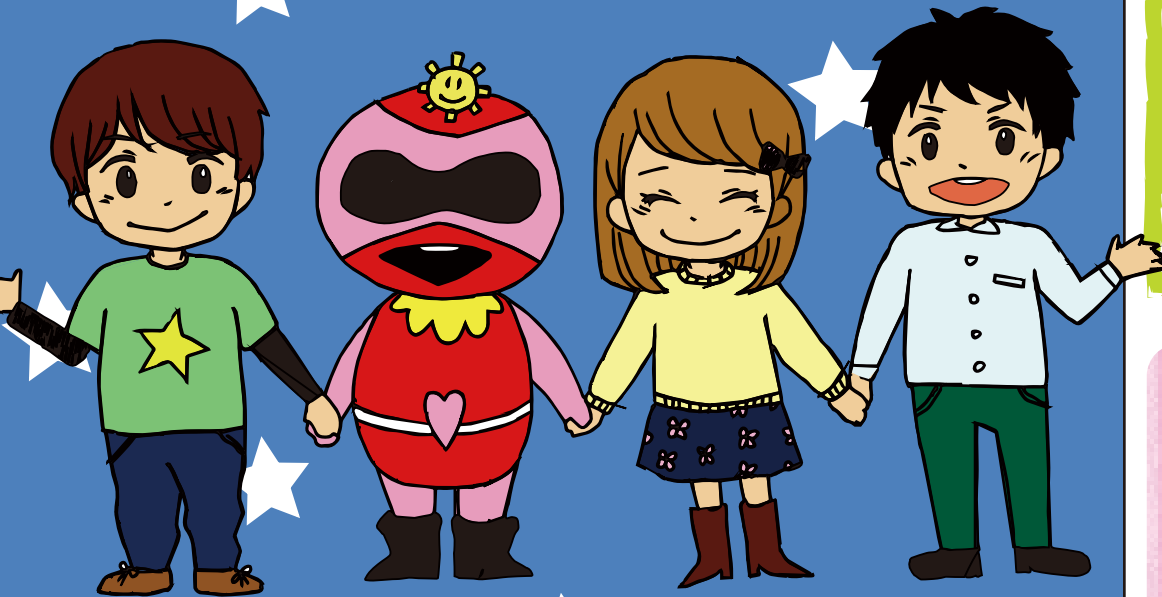


はっしん!! サンライザー

第4号



特集
いろいろな大学の被災地支援

はっしん!! サンライザーって？

こんにちは！俺はサンライザー★三陸を太陽（SUN）のようにさんさんと照らすために生まれたヒーローだ。実はサンライザーは岩手大学の中にもたくさんいるんだ。みんなそれぞれの得意分野を活かして、三陸の復興のために様々な活動をしているんだけど、なんだかあまり知られていないような気がして…そこで、多くの人にそんな岩手大学にいるヒーロー達を紹介したいと思って俺は立ち上がったんだ。この「はっしん!! サンライザー」は学生が被災地に向けてそれぞれのパワーを「発信」することで被災地がまた新たに「発進」しだす手助けになるのではないかという想いを基に、被災地で活躍している人、団体などの情報を発信していく、学生による、学生のための被災地支援紙なんだ！これから定期的に電子書籍として発信していくからよろしくな♪そして、君の近くに隠れたサンライザーを見かけたり、これを読んで君もサンライザーになりたいと思ったりしたらぜひ教えてくれ。一緒に俺たち学生の力を三陸に向けて発信していこう！



特集 いろいろな大学の被災地支援

これまで、はっしん!! サンライザーでは岩手大学内の様々な被災地支援活動を取り上げてきました。その中で他の大学ではどのような活動をしているのかと疑問に思い、今回は学外に飛び出し他大学の被災地支援についてインタビューすることにしました。今回ご協力いただいたのは盛岡大学、岩手県立大学、東北大学の3校です。それぞれ大学ごとに特色ある活動を繰り広げていますが、そこから「つながり」という大切なテーマが見えてきました。どうぞ一読ください。



Poca Poca

東北大学
奥山 拓哉さん

Q: まず、PocaPoca さんの活動頻度について教えてください。

A: 支援室全体では大学内で、学内団体として登録されたボランティア団体のサポートを行ったり、支援室自体がボランティアツアーを企画・運営を行ったりします。具体的には、支援室自体や登録団体の PR を行うスタートアップフェアを定期的に行っています。その他にも、各団体の要請に応じて、広報活動のサポートをしています。Poca2 に関して言えば、特に岩手大学、神戸大学と連携した**岩手県陸前高田市で行うボランティアツアーに携わっており**仮設住宅にお邪魔して手芸・足湯を中心に、体を使った作業などのお手伝いをしています。

Q: 活動頻度はどれくらいなのでしょう？

A: 支援室は**長期休暇毎に 5～8 回のボランティアツアーを行い**、他団体へのサポートも要望に応じて行っています。**PocaPoca は一月に 1 回を目標**に活動を行っています。また、広く学内全体に参加を募集するツアー以外にも、少数の希望者で陸前高田市での児童保育等の活動を行うこともあります。

Q: 活動で大切にしていることなどありますか？

A: 組織として、**被災者とのコミュニケーションを意識して活動していて**、足湯・手芸などの活動はコミュニケーションのきっかけづくりを意図して、

というのも大きいです。本当のニーズの把握も大事ですが、これもまたコミュニケーションの結果得られるもののように思います。地元・東北の大学として、**活動の継続性も非常に重要**だと思っています。

Q: 持続可能性ということでメンバー集めなども重要になってくと思いますが、どのように集めていますか？

A: 支援室全体ではキャンパス内でのポスター掲示、学食のテーブル上の広告用三角柱設置、メーリングリスト登録者へのツアーの案内、説明会での PR、ボランティアジャーナルの発行を行っています。PocaPoca では上記の方法に加えて、Twitter、ブログでの活動報告、及び参加者の募集を行っています。

Q: 他大学とも共同で活動も行っていますが、そこで感じる東北大学の特徴を教えてください。

A: 東北大学は**地元の大学として継続的な支援が可能**です。この継続性こそが、ひとつの特徴になりうると思うし、**目指さなければならない**です。

Q: 最後に一言お願いします。

A: ボランティア活動を通して、**震災のことのみならず、幅広いことが学べる**と思う。学ぶこと、思うことは人それぞれだが、参加者に、そのような機会を提供することを目指していきたいです。



東北大学
東日本大震災学生ボランティア支援室
岩手部門 PocaPoca
twitter @poca_2
ブログ poca² <http://ameblo.jp/poca-2/>

結 - YOU - 盛岡大学 酒井 涼さん

Q: 「結-You-」ができたきっかけは?

A: 3.11 の後、沿岸支援中心のサークルとして立ち上がったのがはじまりです。今年度(平成 25 年度)委員会化し、学校から資金援助をしてもらえるようになりました。顧問の先生はいません。メンバーは登録制で、**現在 58 人が登録しています**。メンバーを集めるための活動は特にしておらず、興味を持った人が集まり、各自登録する、といった感じです。現在、活動の**メインとなっているのは 1・2 年生**です。

Q: どのような活動を?

A: 今年度は、**11 月に沿岸ツアーを行いました**。釜石・大槌を、現地の語り部ガイドの方の案内で周るというもので、**他大学の人も参加可能**でした。また、釜石でサロンや学習支援、漁師さんのお手伝いをしたりもしています。現在は、**盛岡大学付近の自治体の方々と一緒に沿岸へ行くツアーを企画**中です! 防災についての心得等を一緒に学べたらと思っています。「結」では、誰でも好きな時に好きな企画を立てることができます。立てた企画は委員長に伝え、委員長がメンバーにメールを送り、参加者を募集します。**自由な色合いで他大学や企業などの他団体と一緒に活動すること**もしばしばです。

Q: 活動をする上で、意識していることは?

A: 「**つながり**」です! 団体名にも表現している通り、「結」のコンセプトは、「**人と人、人と地域、地域とトキ(時)を結ぶ**」であり、ボランティアをする地域の人々との関係はもちろん、メンバー同士の関係や、大学周辺で暮らす人々との関係なども大事にしています。

Q: 酒井さんが、活動をしてよかったと思うことは?

A: 前の項目でも挙げたキーワードである、「**つながり**」がたくさんできたことです。最初は皆、「ボランティア」という意識で参加しますが、一度現地に行ってみると、次は「**また行きたい**」という**意識で参加するようになる**んです。そうやって意識が変化して何度も足を運ぶうちに、例えば私は漁師さんの家に普通に遊びに行ける、家族のような**つながりができました**。また、一緒に活動した他大学の人も、ご飯を食べに行けるような**つながりができました**。

Q: その「つながり」を築く上で、酒井さんが大事なと思うことは?

A: 電話やメールではなく、**直接会って、相手の顔を見て話す**ことです! これはいつも心掛けています!



盛岡大学学友会ボランティア委員会
結 - You-

公式アドレス moridai.vg.you@gmail.com
Twitter @moridai_you

復興 girls&boys* 岩手県立大学 中條 奈菜花さん

Q: 復興 girls&boys の活動とは？

A: 岩手県沿岸の被災地企業を支援し、元気にする活動です！岩手県沿岸の被災地企業さんから受託され県内外（先日は東京）でイベントを開催し、商品売ってPRします。商品は、食品から松光という流された高田松原の松を使用したキーホルダーまで幅広く扱っています。

Q: 発足のきっかけは？

A: ボランティアや募金とは違った活動で、自分たちだからこそ出来る被災地の支援をしたかった！被災地の商品売って被災地の企業の活性化を図り、そこから若者が被災地に就職しやすくなるのではないかと考えました。そこで、県立大学が行っている『IPU-E PROJECT』という就業力育成支援制度に申請し、2011年の5月に大学から支援を受け発足しました。

Q: 活動で大変だなと感じることは？

A: 継続し続ける仕組みづくりです。何を行うにしても活動費が必要になってきます。初めは大学側からの支援で立ち上げましたが、いつまでも大学からの支援を受けることはできません。助成金の申請などいろいろ行っていますが、費用を得るために活動をしているわけではないので被災地に貢献したいという目的からそれないようにと考えています。

Q: 活動を続けるため工夫していることは？

A: 週に一、二回ミーティングを開き、言いたいことを先輩後輩関係なく言い合えるような場になるよう工夫しています。3年生は秋には引退してしまうので次の代に活動を引っ張っていかなくてはなりま

せん。新しい1年生を迎え、チームにまとまりをつくるためにも互いに信頼できる関係を目指しています。

Q: 岩手県立大学のボランティア活動ってどうして盛んなの？

A: やはり地元岩手出身の学生が多く、自分の故郷のために何かしたいって思えるからではないでしょうか。将来も岩手に残って暮らしたい気持ちがあるから積極的になるのだと思います。あとは学長がボランティアに積極的で支援をしてくださるということもあります。

Q: ボランティアをやりたい学生はどうやって参加しているの？

A: 学部ごとに行っている団体もあります。また、ボランティアセンターでいろいろな活動や団体を選ぶことができますし、一度に複数の団体に参加したりできます。そのほかに4月に復興カフェでそれぞれのボランティア団体のブースを開いて1年生を勧誘したりします！

Q: 活動をやっている感じたことは？

A: 被災地の人の想いを届けている、企業さんに生の声を伝えられるというところにやりがいを感じることができます。大人と関わることが多いし、ただのボランティアではないため、いろいろな書類作りや金銭管理もあります。それだけ責任感も必要です。しかし、イベントなどで知り合った人とまた新たな企画をしたりと人の輪を広げたりすることもできます。信頼のできる仲間たちと共にたくさんを経験することができます。



岩手県立大学
復興 girls&boys*

URL <http://facebook.com/fukkougirls>
twitter @f_girls_boys

編集後記

今回は岩手大学ではなく他大学の方のお話を伺ってきました。今回お話を伺った三団体それぞれ積極的に活動されており、岩大ももっと頑張らないとと刺激を受けました。どの団体も自ら進んで団体や人を巻き込みながら、互いに協力しながら活動を進めている姿が印象的でした。

はっしん!! サンライザーは被災支援に関わる全ての学生たちを応援しています。

♪大募集♪

- ・被災地支援に関わっている学生の情報
- ・学生の力を借りたい被災地支援団体
- ・サンライザーで伝えたいことがあれば、できる限り協力します

サンライザーの最新情報はこちらから!!

HP <http://www.geocities.jp/sunraizaa>

twitter @sunriser_iwate

FaceBook <https://www.facebook.com/iwate.sunriser>

●はっしん!! サンライザー第4号

発刊日 2014年1月22日

協力 岩手大学 / 東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室

復興 girls&boys* / 盛岡大学学友会ボランティア委員結 -You-

助けて!! サンライザー

あなたの力
募集中!!

「被災地で活動する際は、必ずボランティア保険に加入して下さい。詳しくは学生支援課8番窓口まで。※被災地で活動に限定されますが、保険加入料は大学が負担するので、無料で手続きできます。」

子どもまちづくりクラブサポーター募集

★内容

子どもまちづくりクラブに参加し子どもに寄り添いながらサポートしてくれるチャイルドファシリテーターを募集。

★条件

主に陸前高田市、山田町で週末に活動
活動に関わる交通費等は支給

★連絡先

公益社団法人セーブザチルドレンジャパン

MAIL yamada@savechildren.or.jp

TEL 090-2636-3227 (担当山田)

ボランティア講師募集

★内容

山田町・内陸避難者の小中高生の学習支援を手伝ってくれる方を募集しています。

★活動

毎週土日に山田町・盛岡市内で活動しています。経験・資格は無くてもOK!! やる気のある方大歓迎です。

★連絡先

study.iwate2011@gmail.com

(SAVE IWATE学習支援部 / 担当 衛藤)

子どもたちと一緒に遊びませんか?

★内容

毎月第2第4の土曜日に陸前高田市に行き、「みちくさルーム」という、主に小学生を対象とした遊び場、勉強の場を提供するお手伝いをしてくれる方を募集しています。

★連絡先

MAIL morimori_volunteer@yahoo.co.jp

もしくは、FACEBOOK のもりもり岩手のページからお願いします。

高田のいいところ探しませんか?

★内容

陸前高田市を応援するフリーマガジン「いいことマップ」の作成作業。週に一度ミーティングを行い、月に1~3回ほど高田へ取材に行きます。高田に500人連れていくことを目標と一緒に活動しませんか? フリーペーパー以外にも地域の方とガイドマップも作成中です!!

(e-mail) gandai.e.code@gmail.com

(Twitter) @E_code1

(FB) <https://www.facebook.com/ecoderg>